

12/25 クリスマス礼拝説教要旨

ヨハネの福音書 1 章 1-18 節「ただ神によって生まれたイエス・キリスト」

小池 宏明 牧師

イエス・キリストは、眼には見えない神様を見えるようにするために、肉体を取って来て下さった。(1:18) これがクリスマスの出来事である。

*主を受け入れない人々

イエス様の弟子のヨハネが記したこの福音書は、紀元 90 年代のもので、イエス様と寝食を共にした弟子たちが、次々と、地上の生涯を終えていた。イエス様を直接見た人々、その教えを直接聞いた人々もどんどん減少していた。それと呼応するかのように、間違っただけの教えをまことしやかに伝える人々が増えて、教会を混乱させていたのだ。そのことを知ったヨハネは、イエス・キリストが誰なのか！はっきりと主張し、書き残す必要を強く感じたことだろう。この福音書ではイエス様が神であることが強調されている。(1:2-3、1:10)

*主を受け入れた人々の祝福

一方で、12、13 節には、受け入れた人々の幸いが記されている。「しかし、この方を受け入れた人々、すなわち、その名を信じた人々には、神の子どもとなる特権をお与えになった。「この人々は、血によってではなく、肉の望むところでも人の意志によってでもなく、ただ、神によって生まれたのである。」

私たちが、キリストを受け入れるという事は、新しく生まれ直すことだ。今日、キリストのご誕生に思いを馳せる時に、私たち一人一人も、「ただ、神によって生まれ変わる時を迎えていること」を心に留めたいと思う。主イエス・キリストが、私たちの元に来られてから、二千年以上も過ぎている。14 節、主は「**私たちの間に住まわれた**」とは、直訳は「天幕を張った」という意味だ。主は、すぐ近所に住んでいる、と言うことである。もっと言えば、共におられる同居人がイエス様なのだ。イエス様は二千年も前に生まれて、十字架に付けられて、死んで葬られ、よみがえって天に帰って行って、それで終わりではない。主イエス様は、初めからおられて、今も共におられるお方である。私たちと共にいて下さるイエス様を発見しながら、主イエス様に出会いながら生きることができたら、どんなに素晴らしいことであろうか。